

海津木苑運営委員会（平成 29 年度 12 月期）

会議録

1. 日 時： 平成 29 年 12 月 22 日（金）13 時 15 分 開会
2. 場 所： 古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（13 名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	簗原 弘二
委員	奴間 健司	委員	田中 英輔
委員	安武 正一	委員	清原 透
委員	三好 収	委員	池見 直喜
委員	横田 昌宏	委員	松尾 佳久
委員	小山 貴史		

4. 欠席委員（森委員）

5. 傍聴者数（1 名）

6. 事務局出席職員職氏名

市民部長	野村 哲也	環境課長	智原 英樹
海津木苑場長	伊東 孝廣	海津木苑係長	吉田 義昭
海津木苑職員	国本 勝喜		

概要

13 : 15 開会

1. 古賀市あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 協議事項及び報告

① 会議録について 資料.1（事務局より説明）

- (1) 10 月期会議録
 - (2) 12 月期会議録署名（結城委員長・智原委員）
- 【質疑・意見】 なし

② 海津木苑運営に関する実施状況（事務局より説明）

- (1) 平成 29 年 10 月及び 11 月の処理状況について 資料.2-1
- (2) 施設管理マニュアルについて

・設備機器故障時対応マニュアル 資料.2-2

[確認]

委員 : 確認事項で、報告体制のレベル1～3で報告完了日時があり、本チェックシート上部の記入者と用紙を記入する職員とレベル1～3往復される職員は、同一人物との認識でいいのか。報告者と記入者が違う場合はないのか。

[答弁]

海津木苑 : 報告者が全て記入するかたちで考えている。報告については、現場より上がって場長 きて、記入者、係長、場長より課長へ報告と考えている。

[質疑]

委員 : 報告したのは、誰が何時何分に報告したか記載されると解りやすいと思うが。

[答弁]

海津木苑 : 検討させていただき、変更した場合は再度提示する。
場長

③ 平成29年度第2回臭気測定及び騒音・振動測定結果について (事務局より説明)

(1) 第2回臭気測定及び騒音・振動測定(11月8日(水)実施) 資料.3-1 ~ 資料.3-4

【質疑・意見】 なし

④ 海津木苑施設等啓発について (事務局より説明) 資料.4-1 ~ 資料.4-3

【質疑・意見】 なし

⑤ 海津木苑将来構想について 資料.5

(1) 先進地視察 (事務局より説明)

・唐津北部衛生処理センター(11月17日(金))

参加者:運営委員10名 市職員6名

・天草市汚泥再生処理センター(11月24日(金)地元代表者)

参加者地元代表者等13名 市職員5名

[質疑]

副委員長 : 海津木苑の運営委員会では、事務局より6月期に天草や唐津や他施設の提案がされ、最終的に運営委員会では唐津に決めた。地元は、天草に視察に行っているが、なぜ同じ施設ではないのかそれぞれ見に行った理由・過程は、見た結果は別にして。

[答弁]

海津木苑 : 地元協議の中でいくつか視察候補地を提案し、運営委員会と同じ視察地でもいい場長 が、別の所であれば情報量として多くの情報が増えるメリットがある。天草市は、今年4月に供用開始され新しく尚且つ、海津木苑将来構想ケース6の処理システム

に似ており、地元の方が最新の施設ということで決められたと捉えている。

[意見]

副委員長 : 私は、同じ施設でよかったと思っている。作成した視察資料を今後論議して活かしていく事になると思う。

[質疑]

委員 : それぞれの視察へ行かれた方で重複して行かれた方は何名いるのか。

[意見]

委員 : 行政区・農区・鹿部支部・地元市議 4 代表で将来構想について協議を行い、視察候補地が 6 ヶ所～8 ヶ所の提案があり、地元として他施設の啓発についてどのように取り組まれているのか 3 ヶ所ほど検討し、最終的に距離はあるが最新の施設となった経緯がある。天草に行ったメンバーも運営委員としており、今後出来るだけ情報を発信していきたい。

[意見]

委員 : 海津木苑将来構想の見通しがたっていない中、色々な施設を見て将来構想に少しでもプラスになるようにとの思いから参加した。

その中で気づいた事は、施設見学で子どもや大人が来ている中で一番の問題は、啓発であり人そのものを視て、スロープや手すり等あるのか把握するために参加した経緯がある。海津木苑で発信している人権啓発と人づくりを充実していくことが重要である。

[意見]

委員 : 唐津と天草の施設は共に民間委託であり今心配していることは、新施設はどのような処理方式でもよいが、まず海津木苑職員のことを一番に考えていただきたい。

[意見]

委員 : 職員自身が自分の置かれている立場を認識し、自分が施設に必要とされる人間でいるかということに対して努力するべきと思う。

[意見]

副委員長 : 先進地視察をまとめ事務局が報告したが、この場では議論出来ないため次回あたりに視察地唐津と天草の長所・短所の意見を将来構想に向けて論議を深めたい。

[意見・質疑]

委員 : 資料.5 の 3 ページ資源化の記述で 3) 海津木苑、の資源化で➡清掃工場（溶融スラグ）となっているが、脱水汚泥➡清掃工場（溶融スラグ）ではないのか。現在は、溶融スラグで次期施設は助燃剤化となっているが違いはなにか。

[答弁]

海津木苑 場長 : 現在汚泥を処理して含水率 82~83%の汚泥を清掃工場へ運搬している。次期施設で考えているのが、助燃剤化とするために含水率 70%以下に下げる。これは、環境省が推進しており含水率 70%以下で、清掃工場に運搬出来れば汚泥処理設備が補助金対象となる最終的には清掃工場に運搬し燃やす。

[答弁]

環境課長 : ケース 6 の処理方法を考えた時に、今後し尿処理施設の補助金というものはないため、環境省の循環型社会形成交付金となる。これは、資源を循環させることが、大前提であり次期施設は、汚泥再生処理センターという位置づけである。

(2) 第 7 回「今後の海津木苑し尿処理将来構想に関する事前打ち合わせ」

12 月 13 日 (水) 19 : 30 ~ ししぶ交流センター第 2 会議室 (事務局より説明)

[意見]

委員 : 毎年鹿部区総会に海津木苑の啓発等については発信している。海津木苑施設の将来構想を決めるについては、分岐点にきていると地元は認識している。

先ほどの補助金、国への申請等逆算すると、来年度初めには方向性を出していただきたい。将来構想については区の総会資料に添付している。1 月に地元協議を開き何らかの方向性を説明するという事で聞いている。

4. その他

[質疑]

副委員長 : 将来構想については、市も委託をして昨年の 6 月ごろ報告書が作成された経緯があり、そのような状況で海津木苑運営委員の任期が来年 5 月までとなり任期までには、将来構想をどうするのか申し上げてきた。

スケジュールでは来年 3 月で地元と合意がされる予定となっている。将来構想について大まかに市の考えを聞きたい。

[答弁]

市民部長 : 海津木苑の将来構想、市で検討しているバイオマスの関係これについては、今年度中には結論を出さなければスケジュールの関係上厳しい事は重々認識をしている。2 月期の運営委員会には、一定の結論を出していきたい。

[意見]

副委員長 : おおよその事は分かった、大いに期待をしておく当初より海津木苑に係わった委員は私だけと思う当時の事を思うと大変であった。鹿部区は、古賀市のために協力をしてきたと思っている。

地元と十分協議を行ない委員会に出す前に地元と一致をしていただきたい。一致

得ずに出されると困る 1 月に第 8 回の地元代表者協議でまとまるのかと思う。

[答弁]

市民部長 : 海津木苑が出来た経緯、大変な思いで出来たと我々認識している。今回重たい決定になると思う、そのあたりの手続き含め地元理解を得て運営委員会に納得いくものを出していきたい。

[意見]

副委員長 : バイオマスは、考えなくても大丈夫か。

[意見]

委員 : 地元としては、プラスαの受入れは別と考えておりまずは将来構想の答えをお願いしている。バイオマスについては、別途協議をする。

[答弁]

市民部長 : バイオマスを切り離して進める事が難しいので、地元、運営委員会にご理解いただいて進めたいと思っている。

[意見]

委員 : 現在検討しているバイオマス構想将来性があるのか難しい問題もあり、何が何でも推進するスタンスではない、どの地域もバイオマスについては悩んでいる 2 月に出した方がいいのか、4 月で落ちついたところを出した方がいいのか市長判断重要であり慌てて結論を出さないように。

14 : 45 閉会

※ 次回の運営委員会は、2 月を予定しております。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

平成 30 年 月 日

委員長

印

委員長の指名する
出席委員

印